当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう！
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう！
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう！

解放新聞 和歌山版

発行所
解放新聞和歌山支局
〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302
発行責任者
中澤敏浩

文字を学ぶ喜びを

よみかき交流会

2013年度よみかき交流会が1月25日・26日、白浜町ホテルシーモアでひらかれ、15支部（学級）から80人が参加した。

1日目は、新宮識字学級の松根洋子さんの体験発表「外国の人と一緒に識字教室」、善明寺識字学級の識字生による実践発表「水平社カルタ」、7つの会場にわかれて分散会がおこなわれた。

新宮識字学級では、子どもをもつ外国籍の女性がかよっており、学校からのプリントを読めるようになりたい、宿題をみてあげたい、運転免許証を取得したいという目標をもって、日々よみかきを学んでいる体験が発表された。学習だけでなく、家族のことや子育ての悩みなどもうち解けるようになり、識字生たちも刺激をうけて、ともにがんばれるということだった。

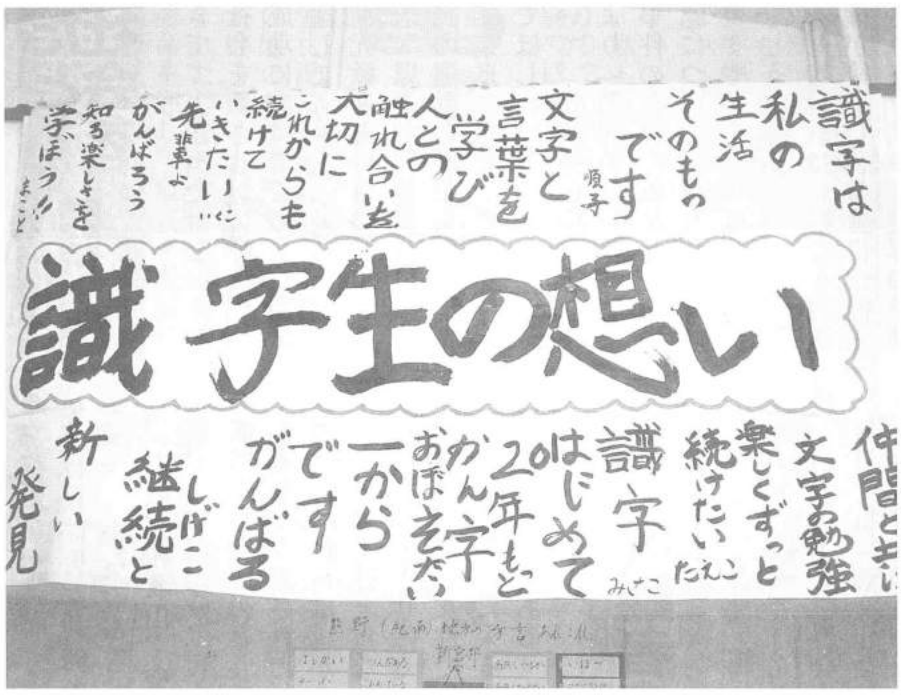
善明寺識字学級は、昨年の水平社紙芝居の作成にとりくんだことで、水平社のこと、西光万吉さんのことを学びたいと、今年はカルタの作成にとりくんだことを作品を交えて発表した。一枚一枚、心をこめて描かれた大作は、参加者からも称賛を浴びた。

各分散会では、それぞれの学級のとりくみや教材などについて報告しあい、高齢化や家族の体調不良による参加者の減少、学習内容などの悩みを話し合った。

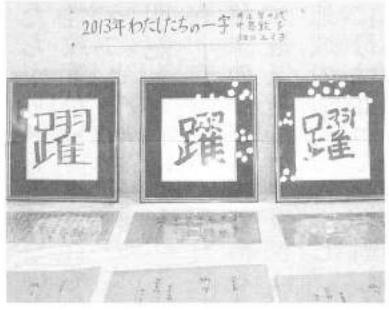
夕食懇親会では、恒例のカラオケ大会がおこなわれ、参加者みずからプロ顔負けの司会進行もこなし、大いに親睦を深め盛り上がった。

2日目は、各分散会の報告がおこなわれ、俳句雑誌『香天』代表であり、深日小学校長の岡田耕治さんによる「識字教室で生まれる俳句」と題した講演がおこなわれた。岡田さんは、解放新聞（中央版）の『解新俳壇』コーナーの選者でもあり、識字教室で俳句をとりいれた学習を指導している。俳句は、季節の言葉「季語」をひとつ使って、五・七・五文字でできる、身近で簡単な文学という。参加者はその場で庭の花のこと、家族のことを題材に、頭をひねりながら俳句をつくり、岡田さんが会場をまわりながら、できあがった俳句を披露した。心温まる作品あり、会場の笑いをとる作品ありで、「難しいと思っていたが、気軽にとりくめるものだとわかった。識字学級でもとりいれてみたい」という意見がだされた。

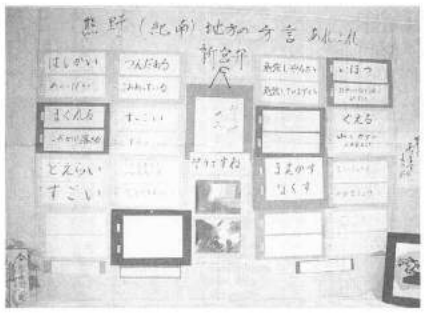
会場内には、各学級の学習ノートや作品が展示され、閉会後には「来年も会おうね」と再会を誓いあった。



岩橋識字学級



田辺識字学級



新宮識字学級

「あかんことは、あかん」絵本で伝える

和歌山・人権啓発研究集会

第14回和歌山・人権啓発研究集会が1月28日、プラザホープをメイン会場にひらき、150人が参加した。

はじめに、主催者を代表して野口道彦・理事長からあいさつがあった。

理事長などからのあいさつののち、絵本「おたまさんのおかいさん」を描いた長谷川義史さんから、4冊の絵本の読み聞かせとそれにまつわるエピソードが紹介された。

NPO活動報告では「犯罪や交通事故などにあった人を支援する民間被害者支援団体『紀の国被害者支援センター』の活動について」を浅利武・同センター事務局長より報告された。また、第1分科会は「戸籍と人権」を大川一夫・弁護士から、第2分科会「識字と人権」では3本の報告がおこなわれ、参加者から「識字について、あまり実感がなかったが、はじめて非識字者の声を聞かせてもらい、勉強になった」という意見がきかれた。

絵本ライブ読み聞かせをした

「絵本で子どもたちを元気に！」

7年前から交流のあった石巻小学校で、震災後によみきかせのために訪れた時のできごとや被差別部落に住む「おたまさん」という女性が炊いたおかゆをめぐって起こるさまざまなできごとを記した「おたまさんのおかいさん」などが紹介された。

最後に「子どもたちに絵本で伝えることは難しい。でも、厳しい差別を受けてきたことを伝えなあかん。せめて連鎖を断ち切る材料になってほしいと思う」としめくくった。

頑健

頑健を書いているとき、ソチみコーチである▼山田さんは、女子ジャンプの道を切り拓いた女性たちの一人で、高梨選手は子どもの頃から山田さんに憧れ、その後を追ったという。山田さんが選手だったころ、女子ジャンプは「ジャンプは、男のスポーツ」「女のくせに」とまったく相手にされなかった。競技をする場所も保障されない状況のなか、男性に混じって飛び続けた。大倉山のラージヒルをはじめて飛んだ女性も山田さんで、女性のジャンプが認知され、国際ツアーが始まって15年、世界選手権はじまってまだ5年である。高梨選手は、インタビューで「先輩が切り拓いてくれた道」と話していたが、まさに山田さんをはじめとする『フライング・ガールズ（山田さんらが立ち上げた女性のジャンプチーム）』のメンバーたちのことである▼つい先日も万能細胞「STAP」を発見して話題になった小保方晴子さん。賞賛する声に混じって「あんなに可愛い女性なのに」という意識があることも否定できない▼日本で、女性の人権が法的に認められてまだ70年も経っておらず、人びとの意識もまだまだである。みずから道を拓き、さまざまな形で活躍する女性たちをみて「排除」と「好奇」そして「とまどい」（実は、差別や偏見だが）がある。しかし今、高く、遠く飛ぶ彼女たちの姿に、大声で「感動」の歓声を…（S・I）